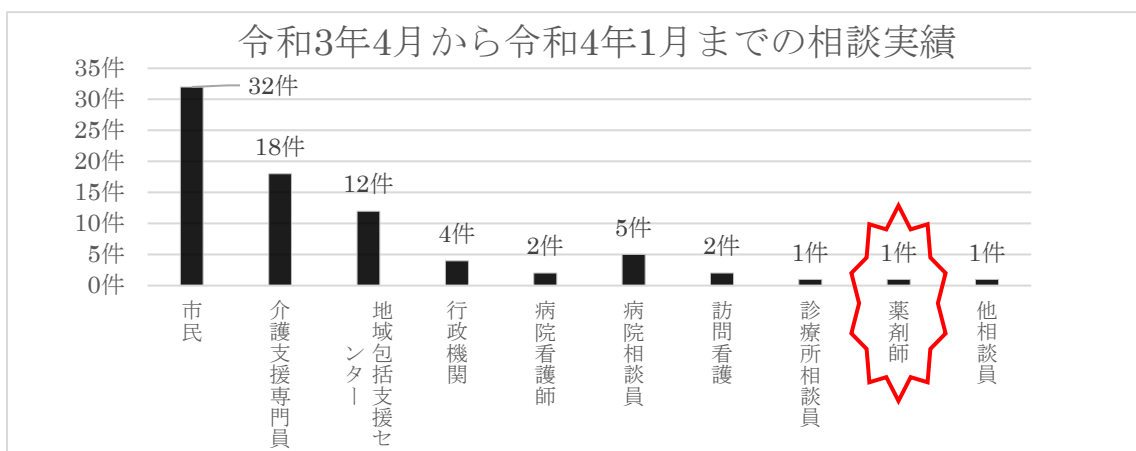


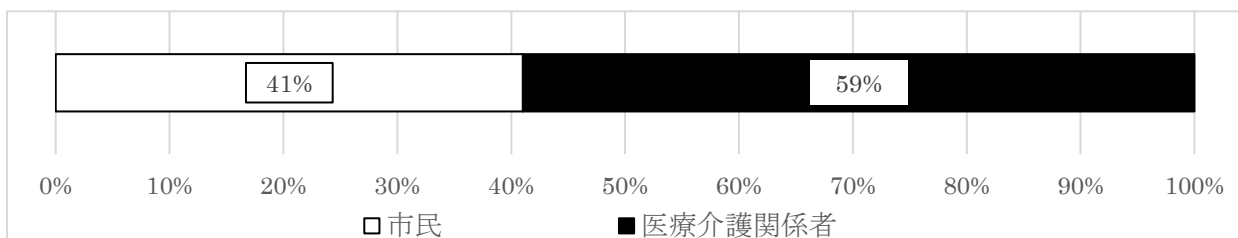
# 令和3年度 多摩市高齢者在宅療養支援窓口 中間実績報告

## 1. 令和3年4月から令和4年1月までの相談実績報告

□ 相談者別実績（総計 78件）



□ 相談者に占める市民と医療介護関係者の割合

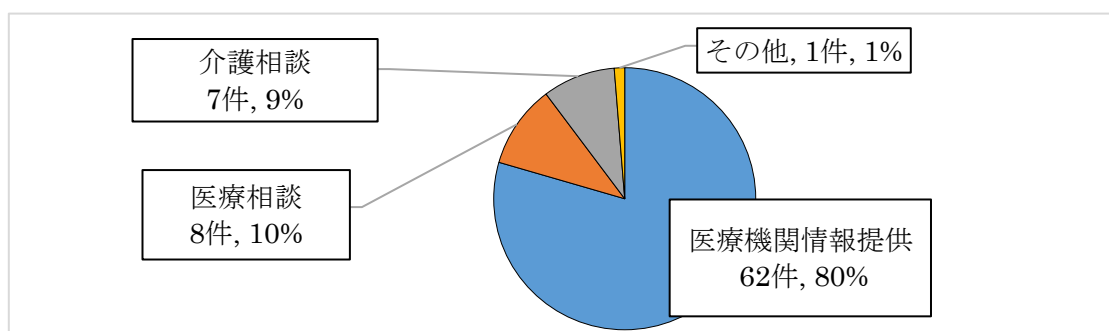


### (1) 職種別相談者実数内訳

- ・医療介護関係者からの相談が1月時点で、59%と市民より多い割合であり、専門職向けの相談窓口として認知度が上がってきていると考える。
- ・職種別相談者の内訳からは、特に病院相談員からの相談が昨年の倍以上に増加している。又昨年同様に介護支援専門員（ケアマネジャー）からの相談も増加している。
- ・今まではなかった薬剤師からの相談依頼があり、多職種への周知がされてきたと感じる。

### (2) 相談内容からみえる現状

□ 令和3年4月から令和4年1月までの相談状況



#### 【詳細内容】

- ・医療機関情報提供・・・市民、専門職ともに訪問診療や専門の診療科に関する紹介等  
認知症と内科や外科などの複数科受診紹介
- ・疾患に関する内容、医療相談・・・緩和ケアや終末期医療についてなどの相談。
- ・介護相談・・・介護保険サービス等の利用に関すること、地域包括支援センターの紹介等

## 2. 相談実績からみえる分析と課題

- ・専門職からの相談が増加し、特に専門職むけのチラシ配布の効果があり、介護支援専門員からの相談が増加している。
- ・病院相談員からは、退院に向けて訪問診療可能な医療機関や医療依存度の高い方や終末期医療・ケアの受け入れ可能な医療・介護機関の紹介依頼の相談が多い。
- ・医療情報に関する専門的情報依頼が、医療・介護関係者に増加している。認知症と内科・外科等と併用して診療してくれる医療機関等の紹介依頼が多くあり、現在は個別性が高いため、個別に対応している。今後は情報の集約や専門職への周知方法を検討したい。
- ・市民本人は生活や病気、コロナ禍での一人暮らしなどの不安の相談が多く、家族からは、訪問診療可能な医療機関の紹介が多い。

(まとめ) 専門職は専門的な医療機関情報、市民は近隣医療機関の紹介、詳しい医療相談や介護相談の情報を求めている。本人家族と医療・介護機関との橋渡し役として関係機関との連携を強化していきたい。

## 3. 活動報告について

項目	取組の成果および課題について
(1) 情報ツール	<ul style="list-style-type: none"><li>・専門職向けに、内科と認知症および外科と認知症等の併用可能な医療機関について、情報を整理。個別に対応を行っている。</li><li>・令和2年度作成した市内7病院の病院相談窓口一覧表を各病院に情報を確認の上更新している。今年度は、市外近郊5病院の病院窓口一覧表を新たに作成し、医師会ホームページ上で閲覧可能にした。今後、病院窓口一覧表に関しては、年1回情報を更新していく予定である。</li></ul>
(2) 普及啓発	<ul style="list-style-type: none"><li>・5月、地域包括支援センター5カ所、居宅介護支援事業所20カ所に、窓口での相談内容を掲載した地域包括支援センターと介護支援専門員向けのチラシを配布した。その後、介護支援専門員からの依頼が増加した。</li><li>・窓口ニュースを6月12月に作成し、関係機関に配布した。12月号にACPの内容を入れたことで、緩和ケアや終末期医療などに関する相談が増加している。</li><li>・コロナ禍であり、訪問や講演会の出席等の機会が減ったため、今後、普及啓発の方法について更に検討していく必要があると考える。</li></ul>
(3) 多職種連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・11月12日近隣5市(日野、八王子、町田、稲城、多摩)の相談窓口の連携を深める為に相談窓口連絡会をオンラインで実施した。5市の現状や取組、コロナ禍での研修方法や広報の方法、地域資源の集約方法、ICTに関することなどの共有を行った。</li><li>連絡会実施後、近隣の資源などの情報交換や相談員間の連携強化の必要性を感じ、5市相談員間のMCSグループを作成することになった。その後も、MCSでの近隣の医療情報提供等活用し、情報共有を行っている。そのため、相談者への速やかな相談解決につながっている。</li><li>・12月17日医療・介護関係者の研修で、窓口担当者として多摩市でのMCS(多摩ICT)の利用状況や登録状況を報告した。研修後、MCSの加入についての問い合わせが増え、多摩ICTの登録者も増加している。</li></ul>